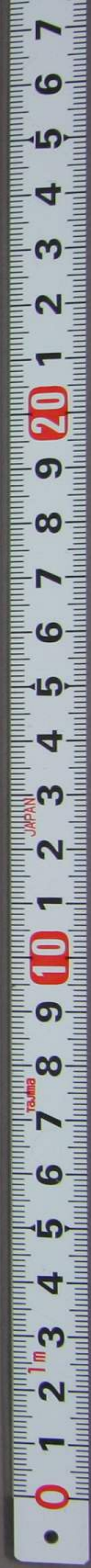


3967

之ノボルト功績記念塔建設ノ記

新刊 昭和二十一年

坂本 信太郎



414
A4581



歐洲各國ニ於テ亞細亞東方ノ開化ヲ探索スル學
 者或ハ萬國ノ本草學者或草木ヲ愛翫スル人等が壹
 人トシテ故人シバルトノ切績ヲ貴マサル者ナシ此人ハ千八百六
 十六年ニシビシ府ニ於テ病ヲ以テ没シ其世ニアル間ニオイトハ五
 トシテ日本國ノ事情ヲ歐洲ニ知ラシメントスル事ヲ希望シ則
 千八百二十三年八月十日始テ日本國ノ地ニ靴ヲ入レヨリ或ハ醫
 學ノ事風俗學ノ事究理學ノ事又文際ニ冥係スル事
 務ヲ勤テ日本國ノ風土産業ヲ悉ク歐羅巴ニ施ス事

大正十一年
 天
 隈
 侯爵
 贈

ヲ意トシ竟ニ驚ク可キ功績ヲ本國ニ著セシ故ニ其名聲が交際
ノ歴史上ニオイテ著シク大関係ヲモテシ且シールトノ爲ニ工
術ニ巧ニシテ天賦ノ富ヲ有セシ日本國か他邦ヨリ先ニテ我
國ニ接近シタル姿ニナリシ故ニ西國ノ學者等がシールトヲ
指シテ再ビ日本國ヲ學文上ニテ發見シタル人ト名付シ
シールト氏ハ學術ヲ研究スル側ラ交易ノ道モ廢棄スル
マナク終身素志ニ悖ラズ全キ形テアル目的ヲ以日本國本
草ノ學ヲ究理シ花形ノ義ニシテ愛觀スベキ艸木ヲ歐洲ニ

漸次輸入シ竟ニ此艸木ノ種類五百有余ヲ本國ニ移シ發
殖スルニ隨ヒ歐羅巴中部ノ氣候寒キ因ニオイテモ保ツ
可キ培養ヲ施セリ依テ各都ノ公園ヲ飾整スベキ草木
トナセリ如此シールトガ三十年来ノ苦心勉強ノ爲ニ各國ノ
本草學者培養家ノ益トナリ大ナル恩惠ヲ受タリ在世ニ
オイテ功績ノ著シキハ自身ニオイテ尤廣大ナル記念塔ヲ
建設シタル如シ又歐羅巴全土諸園中ニオイテ年々
盛栄ノ花ヲ見テハ其都度此人ノ功記標ヲ以盛栄園ノ

花色上ニテ見ル如ク想像サルナレバ我軍ニ於テ未ダ此
花ヲ以テ充分ノ記念塔ト見做ス能ハズ故ニ志ニテ屈
セザル航海者鯨鷲ナル究理學者目ヲ遠ク及ボス經濟
學者トモ曰可キ彼ノ人ノ記念塔ヲ實地ニ造立シ其像
ヲ以テ後世ニ残シテ以テ後學ニ教ヘシヲヲ思フ且同ニ時世
アリシ同志ノ人モ本州ノ爲ニ其功特別ナルヲ思ヒシニ依テ
一千八百七十三年各國ノ本州家及培養家學者有ホカ維
納府ニ於テ本草會ヲ開キニ時ニ我澳地利帝國ノ本州

培養家ノ社中ノ頭取ガモーボルトノ記念塔ヲ萬國
關係ニテ建立セシヲ問ヒ出セシニ各國一同ノ議貞ガ滿
喜ニテ同意セシ依テ此場所ヲモーボルトノ生シシバ
リヤ國ニルツブルグ府ニ於テ建設セント云フテ評定ニ澳
地利國ノ培養家社中ニ於テ此舉ヲ行フベキ委任
ヲ受タリ

如此大勢ノ信任ヲシタル集儀ガ異論ナク同意セシ
事ナレバ我軍ハ歐洲全用ノ草木ヲ好ム人及培養

家ホガ此目的ニ同意セシ事ハ疑ヒヲ入レサル処ナリ總ニテ
各人ガ力ノ及フ限此良キ目途ヲ心願ニカケテ仕果ルフ
ト思ヘリ

故ニ澳地利國ノ花作り社中ニ於テ記念塔建造地ノ
事務局ヲ完キ又有名ナル學者及本州學者培養
家ホガ此建設ヲ助クル爲ニ各所ニカイテ校局ヲ設キト
セリ此如キ校局ノ漸次増加スルヲ本局ニカイテ希望
スルナリ且モボルトノ功ヲ貴ム各人ガ此企ヲ周旋セシト

望マハ其志意ヲ澳地利帝國培養家社中大統領
報知アラシク預テ追テ本局ト校局ト合ニ物休ノ
局トナシテ會合ニ此上行フベキ事務ヲ定メント思フ
且校局ノ名ハ此企ニ関係アル人々ニ廣告セシ

此事務ノ整タレ報告ハ千八百七十五年ニカルスルニ於テ
各國本州會議ノ節ニ當テ悉鋪告知ラスベシ

當今ビルツボルク府市政ノ官員ヨリ此念塔ヲ設ル場所ヲ
用意スルヲ念願ニ約束セシ且記念塔ノ形状及

造立ノ方法ハ此事ニ多少冥係スル人ニ依テ定ムベシ且又
エーボルトヲ貴公ノ或ハ愛スル人又ハ同氏ノ著書勤行
上ニ力イテ惠ヲ受ケ人其功ニ就テ益ヲ授リシ人等ハ此
事務局ノ目的ヲ自己ノ目的ト見做シテ誰彼ヲ
論ビズモ近傍ニ於テ力ノ及ブタケ盡カシ其建設ヲ
盛大ニ行フ事ヲ勉強センフヲ願フナリ
エーボルトノ記念塔ヲ建設スル間合書然間ハ澳地利
帝國培養家社中ノ長官ヲ名宛ニシテ差出スベシ

此別紙ニ記シタル表ニ隨ヒ各自竒附ノ次其本ヲ早ク
出サシフヲ望ム

一千八百七十四年十月

維納府ニ於テ

事務局代理

澳地利皇帝陛下本草會識

副議長

ドクトル エドワルト ヘンセン

同 一等書記官

パーテルゲルハルト エルスホーヒ

同 議員官

ロータレ

アーベル

カニエル

ホイベルンク

ドクトルハイノリシ

ピルヘルム

ライシマルト

